

第6次城北地区地域福祉活動計画表 (2024～2028年度)

～ 未来につながる共生のまちづくり ～

I 共生のまちづくり

1. 健康・福祉の場づくり

開始年度	活動名	目的	具体的な取組内容	実施・協力者(団体)	財源	現状と課題	今後の方針(2024～2028年度)	区分
H20-	健康まつえ21推進隊 (城北)	地区特性を活かした自主的な健康づくりにより、健康寿命を伸ばすための様々な活動を実践する。 (参考) 全29公民館区で設置。	健康づくり講座 お出かけ健康教室 健康予防講座 ヘルスプラン 等	健康まつえ21推進隊員 (民生委員、福祉推進員、ボランティア等で構成)	松江市社協補助金 地区社協	・地区内に既に健康づくりに取り組む複数の団体(特定地域)が活動しており、推進隊独自の活動は健診広報と健康講座が主である ・推進隊の構成メンバーの多くが充て職であり、実働者が少なく活動範囲が限られている。 ・令和5.6年度の2年間は中央ブロックの当番であり、例年以上の取り組みが求められている。	・城北地区における健康づくり活動の実態を踏まえ、特色を活かした活動のあり方を検討する。 ・公民館健康づくり部(既設の活動団体)との情報共有や連携・協力等より活動目的の効果的、効率的な実施を検討する。 ・推進隊の構成メンバーを再考し、企画立案や実務に通じた人材の参画を検討する。	継続
H19-	ヘルスプラン	町内会・自治会単位で健康と福祉について学ぶとともに、地域住民の交流の場とする。	城北地区を8班に編成し各班ごとに毎年1回実施 健康づくり、健康・福祉に関する講座 等	福祉推進員 民生児童委員 地区住民 ボランティア	松江市社協補助金 地区社協	・参加者が固定化しているとともに、参加人数も減少傾向にある。 ・企画内容がマンネリ化しており、そのことが上記の要因ともなっている。	・複数の班が合同で行うことで予算規模も拡大することから、新たな企画立案の可能性を検討する。 ・市社協から研修会等の機会を通じて、取組事例等の紹介を行い、企画立案の参考にするとともに、実施に向けてのノウハウを共有する。 ・ヘルスプランを広義に捉えて、例えば「人生会議」(アドバンス・ケア・プランニング)について考える場の設定なども検討する。	継続
H7～	お楽しみサロン	地区全域の高齢者を対象とした交流の場とする。	毎月1回実施 季節行事 レクリエーション等	地区内の高齢者 ボランティア 地区社協	松江市社協補助金 地区社協	・参加者の固定化(10名程度)が進み、新規加入者が少ない傾向にある。 ・年々、参加者が減少している。	・新たな参加者促進に向けた周知方法や企画内容の検討を行う。	継続
H27-	お出かけ健康教室	各地区へ出かけて行き健康教室を開催し、健康寿命を延ばす。	毎月1回実施 健康体操 等	地区内の高齢者 ボランティア 地区社協	松江市社協補助金 地区社協	・参加者の固定化が進み、新規加入者が少ない傾向にある。 ・年々、参加者が減少している。	・各地区へ出かけて行き、新たな参加者の発掘を進める。	継続
H12-	なごやか寄り合い	町内会・自治会を基盤とした高齢者の生きがいづくり、地域住民の交流の場とする。	現在4町内会自治会で開催。	町内会・自治会 民生児童委員 福祉推進員 ボランティア	松江市社協補助金 地区社協	・現在、4町内会・自治会で実施されている。 ・類似の事業は他の町内会、自治会でも実施されているが、他制度や自主財源で運営されている。	・他の事業(要配慮者支援事業や通所B事業)との連携や協力のあり方を検討する。 ・地区内の多くの町内会・自治会での実施の可能性を検討する。	継続
H23-	城北あつたかスクラム	障がいのある子どもとその親、地域住民の交流の場とする。	毎月一回実施、場所は城北公民館	地区内の障がいのある子どもとその親 地域住民 ボランティア 公民館、	松江市補助金 地区社協	・従来は月1回の集まりでイベントや情報交換などを実施していた。 ・コロナ禍で現在は月2回、体育館でテニスでの交流。5～8家族程度が参加している。従来の集まりを再開することを検討中である。 ・活動の際には、児童一人に一人のスタッフの付き添いが必要であり、更なるスタッフの参画を求めている。	・将来に渡っての活動を視野に、後継者やスタッフの充実を図ってきたい。 ・潜在的な参加希望者に届く周知のあり方を検討する。 ・コロナ禍で途切れた地区住民とのふれあいの場を再開したい。	継続

開始年度	活動名	目的	具体的な取組内容	実施・協力者(団体)	財源	現状と課題	今後の方針(2024~2028年度)	区分
H29-	オレンジキッチン	高齢者の孤食防止、健康維持、生きがいづくり、交流の場とする。	月1回開催、17:00-19:00に夕食を一緒に作り食べている。 食事の提供、参加者の送迎等	ともに支える城北の会ボランティア 松江市社協、 中央地域包括センター 公民館	地区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回15~20名程度が参加。 ・参加者がほぼ固定化しているが、その一方で今以上の受け入れはスタッフのマンパワーや施設の収容能力などから困難か。 ・コロナ禍で会場を従来の「オレンジハウス」から公民館での開催としているが、「オレンジハウス」に戻りたい意向がある。 ・コロナ禍で一時期、従来の会食を配食サービスに切り替えたところ、一定程度のニーズがあった。但し、配食希望者の中には会食形式での参加は希望しない人もいる。 ・当該事業は、社会福祉法人みずうみの社会貢献事業に位置付けられ、調理や参加者送迎などで大いなる協力を得ている。 ・現在は5名のボランティアが当番制で担当しているが、今後は拡充していくことも検討課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が固定化していることに問題意識はあるが、現在の参加者に非常に好評であり、当面は現状での実施を継続していく。 ・施設の整備、設備等については後述する。 	継続
H27-	へるぶ城北	生活の困りごとを解消するための対応する有償ボランティアヘルパーの派遣及び費用負担の軽減を図る。	生活の困りごと（買い物、掃除、ゴミ出し、外出支援、小修繕、草取りなど）に対応する有償ボランティアヘルパーの紹介 費用負担の軽減 1000円/1時間 ↓ 700円/1時間	町内会自治会 生活支援ボランティア へるぶ城北コーディネーター おたがいさままつえ、 市高齢者人材センター 地区社協	地区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と支援団体とをつなぐコーディネーターが年度途中で不在となったことから、現在は城北独自の事業（橋渡し、費用負担の軽減）を中止してる。 ・費用負担が依頼者個人、町内連合会、町内会・自治会に分かれており、事務処理が煩瑣になっている。 ・発足当時は、地区内での支援ボランティアの育成を考えていたが、現状は「おたがいさままつえ」に依頼し、費用負担の軽減のみが地区社協事業となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度当初からの再開を図る。 ・城北地区全町内会・自治会を対象にする。 ・費用負担の事務処理を簡略化する。 ・新たにコーディネーターを確保する。 	拡充
R1~	城北福祉まつり	地区内で福祉事業を展開する各施設を地域住民が巡り、施設福祉への関心を高めるとともに、地域住民と施設の交流の場とする。	公民館文化祭時に併せて開催。 各施設をスタンプラリー形式で巡り、施設紹介に併せて、作品展示やゲーム等を実施。	地区社協 地区内の各施設 城北福祉まつり実行委員会 ゆうあいプロジェクト	地区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内には、多種多様な施設が存在している。 ・関係者以外は、日常的に接することが少ない施設を地域住民により身近に感じて欲しい。 ・施設にも地域住民との交流を積極的にい、地域に開かれた施設となることが求められている。 ・コロナの中断を挟んで、R5年に2回目の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、地域と施設の交流をより積極的に進めていくこととする。 	継続

2. 子どもの居場所づくり

開始年度	活動名	目的	具体的な取組内容	実施・協力者(団体)	財源	現状と課題	今後の方針(2024～2028年度)	区分
R1～	【城北地区寺子屋の会】 ①じょうほく寺子屋 (城北公民館)	子どもの居場所づくりの一環として、 学習の支援 遊びの支援 を主たる目的として運営	小学生が対象 7～8月の月・水曜日 (約10回) 9:30～11:30 約30名 自学+レクリエーション	更生保護女性会城北支部 城北地区パトロールママの会 元教員 松江 BBS (島根大学生) ボランティア 等	松江市 県教職員互助会	<ul style="list-style-type: none"> ・共稼ぎの家庭の増加に伴い、地域における子どもの居場所の必要性をより一層感じている。 ・募集するとすぐに参加希望者が定員に達することから保護者からは開催の増回や定員の拡大を望む声があるが、スタッフのマンパワーや会場(公民館)の確保に課題がある。 ・城北地区の中には、各会場まで距離があり、参加し難い地域がある。(漣北台、うぐいす台 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日数を増回するため、島大、県立大、高校生などの学生ボランティアの更なる参画を求めていること。 ・地区の子ども達が参加し易いように新たな居場所の確保を検討すること。 <p>※本来、子供たちが日常的に往来できるエリアに集える寺子屋(居場所)の設置が理想である。</p>	継続
R1～	②夏休み子どもホーム (東漣北台集会所)	小学生が対象 夏休みの平日 (約20回) 9:00～12:00 約20名	保護者 元教員 東漣北台自治会 地域住民 等					
R1～	③第2漣北台てらこや (第2漣北台集会所)	幼児・小学生が対象 通年(第2土曜日) 約11回 10:00～12:00 約20名 (終了後、「キッチンかえで」に参加)	島根県立大学松江C学生 保護者 民生委員児童委員 第2漣北台自治会 地域住民 等					
R5～	キッズキッチンじょうほく (城北公民館)	子どもの居場所づくりの一環として、 食事の提供 交流の場 を主たる目的として運営	基本的に毎月第2土曜日に開設 メニューはカレー、サラダ&デザート 子供100円大人200円 ※キッチンかえでも同額 参加者は50名前後	福祉推進員、高校生 民生委員児童委員 地域住民 等	松江市社協補助金 地区社協 むすびえ助成金 県社協助成金	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂であるが、実態としては保護者、近隣の高齢者、外国人留学生などの参加もあり、多様な交流の場となっている。 ・今後は、食事の提供ばかりでなく、レクリエーションなども企画していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キッズキッチンじょうほく」(R5.4～)、「キッチンかえで」(R4～)ともに、活動がまだ緒に就いたばかりであり、今後、運営方法等について参加者の意向も踏まえ改善していく。 	継続
R4～	キッチンかえで (第2漣北台集会所)		基本的に毎月第2土曜日に開設 てらこや参加者+他の参加者は30名前後 ※「キッズキッチンじょうほく」・「キッチンかえで」の食事は、公民館調理室で一括調理し、その後「キッチンかえで」分を集会所に搬送	島根県立大学松江C学生 保護者 民生委員児童委員 第2漣北台自治会 地域住民 等	松江市社協補助金 地区社協 むすびえ助成金 県社協助成金			

II 活動への参画・理解の機運づくり

1. 組織づくり ～組織との連携強化～

項目	目的・取り組み内容	関係する組織・団体等	財源	現状と課題	今後の方針(2024～2028年度)	区分
町内会・自治会の実施する各種事業との連携・協力の強化 (要配慮者支援事業、自主防災組織等)	(要配慮者支援事業) 高齢者の孤立化を防ぎ、見守りや声掛け確認を行い、なごやか寄り合いや要配慮者支援事業など活動を進める。 (自主防災組織) 地域住民が自主的に結成する防災組織。で安全点検や防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施などを行う。	町内会・自治会防災組織隊員 民生児童委員 福祉推進員 ボランティア	町内会・自治会予算 松江市補助金 市社協補助金 地区連合会補助金	・要配慮者支援事業は、町内会・自治会では月1回から4回、集会所で実施。 ・自主防災組織は、11町内会自治会で防災組織を整備し、防災訓練や見守り声掛け確認を行っている。 ・今後は町内会自治会にPRし、意見交換会などの機会を持ちたい。	・当該事業を先行して実施している町内会・自治会の活動が他の町内会・自治会でも取り組まれるよう、立ち上がりのサポート(事例紹介、制度説明など)をあらゆる機会(広報、研修棟など)を通じて行っていく。	拡充
町内会・自治会の独自に行う住民主体型サービスへの連携・協力の強化	高齢者の健康維持と介護予防を目的とした総合事業通所型サービスBをより多くの町内会・自治会に設置する。 ※通所型サービスBとは住民等のボランティアが主体となり自主的・自発的に運営する通所型の介護予防事業	町内会・自治会 民生児童委員 福祉推進員 ボランティア	町内会・自治会予算 松江市補助金	・現在、当該事業を取り入れている地区内の町内会・自治会は2カ所である。 ・設置に向けての人材や拠点が必要であり、今後は町内会自治会にPRし、意見交換会などの機会を持ちたい。	・当該事業を先行して実施している町内会・自治会の活動が他の町内会・自治会でも取り組まれるよう、立ち上がりのサポート(事例紹介、制度説明など)をあらゆる機会(広報、研修棟など)を通じて行っていく。	継続
地域福祉諸団体への支援	地区内で地域福祉活動を行う各種の活動団体が安定的・継続的に活動を継続できるよう支援を行う。	地区社協	地区社協	・城北寿会連合会への助成 ・城北母子会、城北地区子ども会育成協議会、石橋3区遊園地、ジュニアクラブへの助成 ・城北地区民生児童委員協議会、更生保護女性北支部城北地区パトロールママの会、城北地区保護司会への助成	・引き続き、財政的支援(補助金、協力金)を行っていく。	継続
ともに支える城北の会の充実	地区内の福祉課題を検討する「ともに支える城北の会」(第二層協議体)の機能強化を図る。 ※第一層協議体は全市的な課題を検討する場、第二層協議体は地域の課題を検討する場	ともに支える城北の会	地区社協	・H28年度の発足当初は、当会に3部会「生活支援と人づくり部会」「集いと健康づくり部会」「台所部会」が設置されていたが、現在は「台所部会」のみが機能している。 ・その一方で、「寺子屋」(3カ所)や「子ども食堂」(2カ所)など、地域課題に着実に対応している。	・「ともに支える城北の会」のあり方を再考する。 ・地域福祉課題の解決に向けてより有効な協議体としての再編を検討する。	拡充

2. ひとつづくり ～住民の参画・理解～

項 目	目的・取り組み内容	関係する組織・団体等	財 源	現状と課題	今後の方針(2024～2028年度)	区分
新たなボランティアの育成	城北地区内で地域福祉活動を行うボランティアの裾野を拡げ、各種の活動により多くの者が関わっていくことにより、個々の負担の軽減と継続的な活動や新たなニーズへの対応できる体制を作っていく。	地区社協 公民館 地域安全推進委員会	地区社協 公民館 松江市 松江署生活安全課	・近年、これまで中核となって活動を支えていた人が高齢化や疾病等により、活動に参加できなくなるケースが増えている。 ・活動自体が極めて限られたスタッフで運営されており、負担が集中している。	・地区内にボランティア活動の紹介や参画の呼び掛け等を行うため、各種の会議、研修会、広報などあらゆる機会を通じて参画を募っていく。 ・学生団体（大学生、高校生）との連携を強化し、より多くの参画を呼び掛けていく。	拡 充
広報活動の充実	広報誌「城北社会福祉だより」の年2回発行(全戸配布)	地区社協 地区福祉活動団体 等	地区社協	・相応の経費をかけて全戸配布されているが、どれだけの人々の耳目に届いているのか不明である。	・広報活動の主要な媒体として、より効果的な掲載内容となるよう検討していく。 ※各活動団体の紹介、ボランティア募集、健康・福祉の情報提供 等	継 続

III 活動を支える基盤づくり

1. 小さな拠点づくり

項 目	目的・取り組み内容	関係する組織・団体等	財 源	現状と課題	今後の方針(2024～2028年度)	区分
町内会・自治会単位での拠点整備	町内会・自治会が地域福祉活動の拠点として空き家、空き店舗等を整備・改修する経費の一部を支援する。	地区社協 町内会・自治会	地区社協 町内会・自治会 公的補助金等	・地域福祉活動が日常生活の範囲内で完結できる拠点の整備の必要性が強く求められている。 ・地域福祉活動が活発な各団地では、活動拠点として団地内の集会所が広く利用されている。 ・その一方で、町内会・自治会の中には住民が集える場所(拠点)がなく、住民相互のふれあいや活動の妨げになっている。 ・空き家や空き店舗の放置が問題化する中で、有効な利活用が図られないものか。	・「小さな拠点づくり」事業として6次計画期間内の重要な課題として取り組んでいく。 ・行政が行う空き家対策等とも連携を図り、福祉分野以外にも広く助成制度の導入等を検討する。 【参考】 松江市集会所整備事業補助金交付要綱	拡 充
オレンジハウスの運営	地域福祉活動の拠点としての利活用策を検討する。	地区社協	地区社協 松江市補助金 松江市社協補助金	・家屋の所有者から低廉な家賃で貸借しているが、その一方で、設備整備が老朽化しており、十分な活用が図られていない。	・多様な利活用が可能となるよう、設備整備の充実も含めて検討を行う。 ・公民館の同規模の部屋より安価での利用が出来ることを広く周知する。	継 続

2. 財源・資材の確保

項 目	目的・取り組み内容	関係する組織・団体等	財 源	現状と課題	今後の方針(2024～2028年度)	区分
財源・資材の確保	地域福祉活動の継続的・安定的な活動を支えるため、有効な財源の導入や資材の獲得を図る。	地区社協	地区社協 公的補助金 その他	・各活動団体ともに運営経費の捻出に苦慮している。 ・初期経費ばかりでなく、継続的な運営経費の確保が強く求められている。	・多様な公的補助制度の中から活動目的に合致する有利な財源等の導入を検討する。 ・子ども食堂の食材をはじめ、各活動に必要な資材等を調達を広く求めていく。 ・自主財源の確保を検討する。(バザー等)	継 続